

## 日本あちこち河川遡行記（第321回）

大阪-7.樫井川（その1）令和4年10月21日（金）晴

遡行に絶好の季節到来！コロナ第7波も落ち着いて来たので今年の12月15日以来ほぼ1年ぶりの遡行に出かける。連日家に閉じこもっているのでいささか不安が有るので歩く距離は5km程度として大阪7番目の川「樫井川」を目指すことにした。11時半南海難波駅に竹馬の友と合流して特急「サザン」に乗車。8両編成の前4両は指定席車、後4両が自由席車の混合編成である。多くの客は後ろに乗車する。和歌山まで行くなら指定車で行くか、となるが30分程度なら後でOKである。豪華な指定車に対し自由席車はいささか古い車両をくっ付けている。少しでも前の新しい車に乗ってもらうためにもええ車はご法度だ。「新今宮」で多くの乗車があり、「天下茶屋」に停車後は連続高架をぶっ飛ばす。高架駅の「堺」を出ると次は「岸和田」で線形が良いのと高架化が進んでいるのでここでもぶっ飛ばす。「泉佐野」で各停に乗り換え二つ目の「吉見ノ里」駅で下車。初めて訪れる駅である。駅から1kmほど先の河口に向かう。ここは今は少なくなった町の一つ「田尻町」である。関空のほぼ三分の一が町域で、関空の無い時代は面積日本一狭い町の時代があった。関空二期が完成し、隣接した「泉佐野市」と「泉南市」と3市町がほぼ三分の一ずつ領土としている。関空からの固定資産税のお陰で町は独立を保っている。

狭い路を歩くと直ぐにマンホールが現れる。真ん中の町章を挟んで5匹のタマネギ君が笑っている。町章は「田」の字が4つとその真ん中にりの字のつもりの平行線が縦に入っている。これで田4りとなるやな。調べると田尻町は日本で最初にタマネギ栽培を始めた所とある。子供の頃南海と阪和線に乗るとタマネギ畑とタマネギ小屋が多く有ったのを覚えている。今では海向こうの淡路島の三原地域が産地となった。直ぐにこんもりとした森が島のように見える神社を通過する。「春日神社」とある。立派な鳥居が立ち住宅街の中の静寂な一角となっている。



01.田尻町は全国に  
先駆けて栽培したタマ  
ネギがイッパイ



02.海岸に向かうと「春日神社」が

海に近い住宅街の電線を見ると多くの鳥がとまっている。よく見ると鳥では無く電線の附属器具のようである。青空に多くの鳥が旅支度をしていたのかと思ったがナンヤ。海岸沿いに走る府道63号にやって来る。北東側を見ると田尻漁港を跨ぐ「田尻スカイブリッジ」のコンクリート斜張橋の塔柱（H=110m）とその先に細長く聳える「りんくうタワー（H=256m）」が重なるように見える。関空は泉南地域を一変させた。



03.電線に多くの鳥がとまっている  
と思いきや

04.細長いビルと橋の塔柱が競っている



府道を越えて海岸に出て最初の橋「泉南マリブリッジ」を視るため道路の外に出る。西の彼方に関空が横一線に広がっている。連絡橋の関空寄りの強風時に船がぶつかったトラス桁が他の桁と色が少し違うので分かる。地盤沈下が激しかった関空も、最近はそのことがニュースになっていないので沈下も少なくなってきたのだろう。新空港反対だった神戸市が万博に備え国際便を、

と言っているがよくもしゃあしゃあと言えるものだ。喉元過ぎれば暑さもメンツも忘れるのだ。



05.彼方に関空が

06.関空連絡橋も修復された

海岸の砂浜に多くの千鳥のような鳥が固まっている。この鳥何でしょ？気になる鳥です。



07.海鳥が固まっているぞ

橋を視て道路を横断し土手に登る。右岸側を上流に向かうと0.2キロポスト標識が立っている。青空に白い雲、遥かに和泉の山並み、そして川が緩やかに流れる。やっぱりエエナー。堤防の下と民家との間に川沿いに空き地が延びている。河川敷と思われる平地には色々な草花が咲いている。夏の花、朝顔が未だ咲いているぞ。



08.秋空の下川は流る



09.距離標識は0.2キロから開始

写真10.今年も暑いおしたな、未だ咲いてまんねん

「紀州街道」の橋を越えると次は南海電鉄の橋が現れる。今日は日差しが強く暑いので桁下の日陰で暫しの休憩を取る。この辺りは1時間に特急2本と各停4本のダイヤなのであるが休憩中は通過列車は無し。休憩後遡行を再開すると上りの「サザン」がやって来た。さんざん待っての通過だ。後ろ4両はガラガラである。



12.後4両はガラガラだ



11.特急サザンがやって来た

国道26号の手前で田尻町から泉佐野市に入る。26号は我が故郷、梅新交差点から御堂筋を経て和歌山に向かう国道である。橋名が分からないので友に高い橋に階段を登ってもらい確認する。すんまへんなー。橋の下を越えるとこの辺りの地名は「北野」となっている。へー、ここにも北野がおりませ。足元には泉佐野市のマンホールが現れる。市の木であるイチヨウの葉がデザインされている。もう少し遅く造れば関空が描かれたのに勿体ない。川はここで大きく直角に曲がり南東からの流れとなる。直ぐの橋の名は「明治大橋」。その次は「大正大橋」だ。大きく出たものだ。疎の橋の袂に大きな青石の立派な石碑が木の間に立っている。この川近くで大阪冬の陣の合戦が行われた「樫井古戦場跡碑」である。堀を埋められた大阪方は城外で戦わざるを得なかったのだ。



13.泉佐野市はイチョウだらけ



14.橋の袂に冬の陣の戦場記念碑が



15.町内会が取り仕切ってはるで

明治から大正の方に向かう土手道は、この地域の町内会が管理しているようで、町会からの御触れが建っている。こんなん初めてや。土手下に実が満艦飾の柿の木が有る。柿の実と朝顔が一緒だぞ。季語を直さんとあかんな。



16.本格的な秋到来

大正橋を視て予定通り今日はここまでとして川を離れバス停に向かう。14時52分に泉佐野市コミバスの「横井青年会場前」バス停に到着。4.2kmの歩きであった。青年会場とは聞き慣れない言葉である。バスは予想通り無料である。関空からの税金と全国に知られたふるさと納税の市ならばこそその無料である。15時07分ダイヤ通りにバスが狭い道路に現れる。11人席の小型バスに8名が乗っ

ている。丁度2名が座れる。市が南海バスに運行を委託しており、新しいバスを若い運転手が気持ちよく対応している。乗客は皆降りる時に挨拶をしていく。バスはあちらこちらに立ち寄り泉佐野駅に向かう。当方は途中の「羽倉崎駅前」で下車する。「有難う、おおきに」と降りる。



17.横井青年会場前バス停に到着

いずみさのコミュニティバス発車予定時刻表

南回り  
横井青年会場前

平日(月曜日～金曜日)		土曜日	
第1便	7:52	第1便	10:24
第2便	9:20	第2便	11:54 ※
第3便	10:48	第3便	14:24
第4便	12:16	第4便	15:54 ※
第5便	13:44		
第6便	15:07		
第7便	16:30		
第8便	17:53 ※		

次は 横井

※印のバスは泉佐野駅前まで次便への接続はいたしておりませんのでご了承願います。

運賃：無料

日曜・祝休日・秋の祭礼期間・年末年始(12/29から1/3)は運休いたします。

南海ウイングバス株式会社 072-467-0601



18.閑空を持ち故郷減税でバスは無料だ

19.新しいバスが狭い道に進入

直ぐに電車がやって来て乗車。次の泉佐野で閑空からやって来た急行に乗り継ぐ。大きなバックを持った乗客で座席はほぼ埋まっている。何とか座り難波に向かう。急行は停車駅が多くどんどん乗ってくる。新今宮でどっと降り難波に着く。さあこれから第二ラウンドのイッパイやる時間である。友はこちらの方がメインなのかもしれないぞ。今日はいつものキタの梅田では無くミナミの難波でヤルことにして駅から西に向かう。かつて大阪球場が在った跡地はすっかり変わり「なんばパークス」なる複合ビルになっている。駅の直ぐ横の一等

地に広い球場は勿体ない、と大規模な改変が行われ駅の西側は高層ビルが立ち並んでいる。北側と東側は雑多な繁華街であるがこちらは洗練された場所でミナミらしくない。北の人間がミナミを探索だ。うろうろしてビル内を探検し7階の一角でビールを楽しむ。帰りの新幹線の「ひかり」は最新の N700S であった。外観は殆ど変わらないが室内のシートの青色が少し明るくなったのと、ドア上の LED 案内装置が大きくなり、字もでかくなっているのがカシャ。



20.N700S のドア上の表示がでかくなっている

本日の歩行距離：4.2km。調査した橋の数：7。

総歩行距離：11,197.6km。総調査橋数：14,611。

使用した1/25,000地形図：「樽井」（和歌山10号-4）